

金沢大学十全医学会雑誌について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45352

金沢大学十全医学会雑誌について

本誌は、金沢大学医学部（現医薬保健学域医学類）の卒業生、現教員および元教員を中心に構成される「十全医学会」が発行する学術誌である。第四高等学校医学部十全会雑誌第1号（明治29年11月25日発行）に始まり、今年度は第125巻となる。年3回発行の季刊誌であり、発行部数は平成28年5月現在、会員数（2132人）に他機関との雑誌交換数92件、外国郵送数10件を加えた2000部余である。過去掲載記事は金沢大学学術情報レポジトリ（KURA）のホームページから入手することができる〔平成27年現在：十全會會誌1号（1896年）から金沢大学十全医学会雑誌122巻1号（2013年）までダウンロード可能〕。

本誌の記事は、大きく、会員の投稿による原著と編集部の依頼による総説に分けられる。前者には論文（full paper）、短報（short report）、症例報告（case report）などの形式があり、いずれも編集委員（8名の教授、准教授からなる）またはその委託を受けた会員による査読を経て掲載される。日本語のほか、英語による投稿も可としている。後者には、医学系の若手教員による各自の研究内容についての総説のほか、博士および修士課程優秀論文、十全医学会賞受賞論文などが含まれる。その他、研究紹介、学会開催報告、留学報告、学会見聞記などの記事がある。

かつての本誌は、博士号取得のための原著論文がほとんどを占め、年6回発行で毎号あたりの掲載数もきわめて多かった。近年、原著の掲載数が激減しており、年4回発行を経て、さらに昨年度からは年3回発行に変更した。その理由としては、論文博士（乙）の件数が減少したことや、本誌以外の学術誌、特に英文誌に掲載された論文で学位を取得する件数が増えたこと、二重投稿の規制が厳しくなったことが考えられる。この傾向は今後も続くと思われるので、本誌に学位論文を掲載することの意義を指摘させていただきたい。学位が個人に与えられるものである以上、本人の単著が学位論文に最もふさわしい。また日本語であっても本人自身が苦勞して書いた論文は、共著者である指導教員が大幅に関与した英文論文よりも学位にふさわしいであろう。日本語の学位論文を書くことで論文の書き方の訓練ができる。さらに、海外誌に掲載する論文では、受理されることを最優先として、文章の長さや図表の数は制限せざるを得ないが、本誌の論文では比較的自由に多くのデータを図表として出し、十分な長さの考察を書くことができる。また締切り期日にもある程度の融通が効く。今後研究者として多くの論文を出していく人にとっても、また学位論文以後はあまり論文を出さない人にとっても、一生に一度の学位論文を母校の学術誌に掲載することは意義深いと思うがいかがであろうか。

また、会員諸氏には学位論文以外の原著の投稿もお勧めしたい。本誌の原著では、カラー図板も含めて学会が掲載費用の一部を負担することにより、著者の投稿料を安くしている。短報は、長さの制限がある他は論文と同じ形式である。医科学専攻修士課程の修了者が学位取得後に研究の内容を短報として投稿する場合には、投稿料の一部を学会から補助している。次に、症例報告などの臨床的論文がある。近年、学会認定専門医の取得動機が高まっているが、専門医取得にも論文業績は必要である。日常の臨床業務で経験した症例等を本誌に投稿されてはいかがであろうか。

十全医学会には学生会員の制度があり、現役医学類学生が格安の会費で入会し、通常会員と同じく十全医学会雑誌の送付を受けることができる。現在、学生会員数は466人（平成23年度より実施）であり、例年、新入生や編入生の約8割近くが入会している。また医学類ではMRT（medical research training）プログラムがあり、希望学生が特定の研究室に席を置いて研究やセミナーに参加している。MRT参加学生は十全医学会の学生会員として、在学中に教員の指導のもとに行った研究成果を本誌に投稿してはいかがだろうか。学生会員による原著が通常の査読を経て本誌に掲載される場合には、投稿料を無料にしている。

以上のように、会員諸氏には、自身の業績を増やすとともに、十全医学会の学問的アクティビティの維持向上に貢献するためにも、本誌への投稿に積極的なご協力をお願い申し上げます。

十全医学会雑誌編集委員長

井 関 尚 一